

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ		令和3年度 第2回 点検・評価					
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	①	②	総合	改善策のまとめ	学校関係者評価	自己評価	外部アンケート	次年度の課題		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な探究(学習)の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。	・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。 ・自己表現が苦手な生徒が多いので、教科毎に様々な工夫を施して言語活動を取り入れ、授業アンケートによってその効果を検証する。	B	A	A	○各自のテーマが適切に判断しながら、探究活動ができるよう具体的な方法を指導した。 ○定時制における生徒の特性もあり、生徒同士が学び合う環境を全ての学年で作出すことに難しさがあるが、教員を含めた話し合いや学び合いについて、できるところから学び合いの形を追求しようとした。	○点検評価活動として「PDCA」サイクルを回しておられますが、改善策の実効性を更に高めるために、1.各評価対象領域において、それぞれ重点目標(または課題)を一つ(プライオリティ1位)定めてみる。 2.重点目標は、そうした領域毎とは別に、可能でありましたら学年毎に分けて決めることも、ありそうと思いました。 ○定時制の先生方が生徒に寄り添い、親身になって指導、支援していただいております。 卒業の時点で就職活動が厳しいことと聞いていたのですが、今年度は良好な結果であると説明がありました。指導の成果であると共に在校生の自信に繋がることを期待しています。	A	A	○新教育課程の実施を踏まえ、各自のテーマについて、生徒が更に主体的に探究を進められるよう、興味・関心を引き出す工夫を模索する。		
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。		A	A	A			○感染症拡大防止の観点から、ペアやグループでのワークがやりにくいことはあるが、細心の注意を払いながら、話し合いや学び合いを通じた主体的な学習を推進する。				
		2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	A	A	A	○きめ細かな指導を行い、生徒一人ひとりに目が行き届くようにした。また、生徒が学年を超えてコミュニケーションを行えるよう、学校行事や部活動を支援した。		A	A	○個々の生徒が持つ様々な特性を理解した上できめ細かい指導を行い、生徒が本校定時制で学ぶことに安心感と充足感を持てるよう、引き続き様々な場面で支援していく。		
		3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育てていますか。	④ 継続して登校できるようになり、授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が80%以上いる。	B	B	B	○登校しやすい環境、個に応じた指導を心がけ、これまで足りなかった部分を補えるよう指導した。 ○教育相談体制を整えて、問題を抱えたときに、気軽に教員に相談しやすい環境を構築した。		B	B	○教育相談的な対応も重視しながら、生徒への目配り、声かけを行い、居場所作りを心掛けるとともに、一人一台端末を利用した学び直しを促すなど、基本的な学習内容が定着できるように様々な工夫を行っている。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上いる。	・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、回復・継続的指導を行う。	B	A	B	○定期的に授業改善に向けた会議を開き、生徒個人個人の特性に配慮した、個別指導・対話的学習などの積極的な導入に向け努力した。 ○必要に応じて補習を呼びかけるなどして基本的な内容の定着ができるよう支援した。	○良く問題点の本質を把握されており、すばらしい評価一覧表となっていると思います。引き続き、ご指導お願い致します。	A	B	○学力差がより大きくなってきたことを踏まえ、上位者、下位者それぞれに個別指導を積極的に行う。特に下位者についてはより早い時期から取り組ませたり、学習障害が疑われる場合には通級などの利用も促したりする。		
		6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。		⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率7割以上の生徒が60%以上いる。	B	B			B	○間違えやすい漢字を取り上げ、授業で解説をすることで、さらなる定着を目指した。	B		○国語だけではなく様々な教科での活動を通じて漢字習得の重要性に気づかせ、より多くの生徒が積極的に学習に取り組むように促していく。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化を特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかせるよう支援する。	A	A	A	○生徒の状況をよく観察し、定期的に会議を開いて職員間で情報を共有するようにして、生徒の様々な問題を一人で抱えず、全職員の共通認識の元で組織的に指導に当たるようした。	○学習活動への指導ですが、漢字の習得について漢字テストだけでなく、読書の習慣をつけるよう指導してみたいかがでしょうか。語彙を増やすことは、自身の考えを表現することにもつながります。楽しく学べるような工夫を期待します。	A		○今年度後半から設置した定期的(2週に1回)に生徒の情報を共有するための会議を活用して、全職員で組織的に生徒の支援を進めていく。 ○養護教諭(非常勤)やSCなどに積極的に働きかけることで、より多面から生徒を支えられるようにする。		
		8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。		⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対応に努め、解消率が100%である。	A	A			A	○授業中の生徒のやりとりなども含めて学校生活を細かく観察し、気になる言動があれば、職員間で共有でききめ細やかな指導を行った。 ○いじめが発生した場合は、基本方針に従い迅速・適切に対応する。	A	A	○きめ細かな生徒観察を行いながら、変化が見られた場合には直ちに対応する。また、生徒にいつでも相談できることを認識させ、相談しやすくする。外部の相談機関の情報も積極的に紹介する。
		9 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。		⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	B	B			B	○欠席等の場合、家庭と必ず連絡を取り、特に生活習慣や健康管理についての情報を共有した。 ○仕事との両立を支えるため、個々の生活状況について面談やアンケートで把握し、必要なアドバイスをを行った。	B		○家庭との連絡を密に取りながら連携して生徒の指導に当たる。特に、感染症拡大による生活リズムの崩れに注意する。また、生徒が登校したくなる魅力ある学校作りを努める。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。	・上級学年を中心に、進路に関する生徒個別面談を実施する。 ・進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。	A	A	A	○進路講演会の開催時期や内容を見直すことで、生徒のニーズに合わせる事ができた。 ○ハローワークや大学、専門学校に積極的に訪問したり、進路講演会に参加したりすることで最新情報を入手するようそれぞれの進路に合わせて促した。	○進路講演会の実施方法を変えたことは有効であったと思われるので、次年度以降もこれを踏襲する。 ○低学年のうちから進路意識を醸成するよう指導を進める。 ○大学等の入試を考える生徒に対して、早い時期から働きかけを進める。	A		○保護者面談等の機会にじっくり時間を取って情報提供していく。		
		11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。	A	A			A	○生徒の進路希望について保護者面談等を通じて確認し、生徒の支援の仕方について共通理解を図り、進路講演会など進路情報提供の場を提供した。	A	A	○アルバイトを含む就業について、感染症拡大予防には充分注意し、さらに過半が不登校経験者であることに留意しながら、社会と積極的に関わり自らの進路を考える貴重な機会として推奨していく。 ○必要に応じて雇用主との情報交換を行い、生徒への支援を進める。
		12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。		⑬ オープンスクールや中学校訪問による学校説明、案内等を年3回以上行う。	未	A			A	○中学校教員や保護者などに定時制の魅力や直接訴え理解を得るとともに、在籍生徒の学校での様子を伝えることなどを通して、本校定時制への信頼を得るよう努めた。	A		○中学校教員や保護者に対して直接定時制課程の魅力や訴え、生徒の活躍を伝える貴重な機会として、感染症拡大予防に充分配慮しつつ積極的に行う。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。	・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。 ・様々な学校行事で、地域の外部講師を招聘する(ただし、感染症の状況により中止の可能性もある)。	B	A	A	○学校行事に限らず、学習活動の成果など、様々な面から生徒の活躍がわかるような紙面構成にした。	A		○頻繁に、しかもタイムリーに「定時制便り」を発行していく。			
		13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。		⑮ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。	A	A	A	○感染症対策を徹底した上で、可能な範囲で外部講師を招いての講演会等を実施した。	A		○感染症の状況にもよるが、次年度さらに積極的に実施する。		
		14 ICTを活用した指導を行っていますか。		⑯ ICT機器を活用した授業を行った教員が100%である。	B	B	B	○授業では、それぞれの教員が様々なICT機器を使用しているが、一人一台端末についても、さらなる利用を進めた。	A	B	○chromebookの授業での利用について、その積極的な活用を進めていく。		
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	15 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ICT機器を活用して成績処理を行った教員が100%である。	・各自が効果的な使用法を研究し、授業公開や校内研修等の機会を利用して成果を共有する。 ・全職員がスクールネットを使用して成績処理や指導要録・通知表等の作成をすることで、業務の効率化を進める。	A	A	A	○全職員がスクールネットを使用して成績処理や通知表・調査書等の作成しており、各自が利用方法についてさらに熟達できるように進めていく。	A		○各自が、さらに多くの場面で利用方法について熟達できるように進めていく。			